

知恩 第28号

目 次

1 栃木県大田原市 慰靈訪問	2
2 岡見事務局長の退任について	4
3 令和3年総会等 恩光碑保存会の事業について	6



令和3年の初日の出(1月1日大洗海岸にて)



令和2年7月、二の丸角櫓の本体工事が
ほぼ完了しました。外部を覆っていた足場
が解体され、水戸駅北口ペデストリアン
デッキから二の丸角櫓が見えるようになりました。



弘道館の梅



福寿草

2月14日からNHK大河ドラマ「青天を衝け」が始まりました。株式会社の設立など近代日本資本主義の父と呼ばれた渋沢栄一が主人公ですが、青年期には一橋徳川家の家臣・幕臣として徳川慶喜公に仕え、水戸の学問や思想に大きな影響を受けたようです。ドラマでは、弘道館の内部や対試場などがロケ地として使用され、幕末水戸の状況の一端をしのぶことができました。

1 栃木県大田原市慰靈 宝寿院供養墓・佐良土戦死塔

令和2年8月2日、役員にて栃木県大田原市片府田の宝寿院・佐良土戦死塔を訪問し慰靈を行ったことをご報告します。

今回栃木方面で慰靈を行ったのは、恩光碑保存会では栃木方面でこれまで慰靈を行ったことがなかったことに加え、宝寿院にある供養墓が建立後百年を経て土台に歪みが出ていたため、平成30年5月に宝寿院明覚寺第三十世英昭住職により供養墓の修復を行っていただいたことを知り、早めに御礼の挨拶をしたかったためです。本来は会員の皆様にもお声がけするところですが、新型コロナウィルス拡散のおり、役員で代表して訪問させてもらいました。

栃木県大田原市片府田の宝寿院は、会津から水戸へ移動する市川勢が宿泊し、その際に襲撃を受けて多数の戦死者を出したところです。また、佐良土にても戦闘があり市川勢に戦死者が出ています。諸生党の戦死者は路傍に捨て置かれてしまう時代状況の中、宝寿院には明治21年に地元の女性方により供養墓が、佐良土にも地元の方々が建てられた戦死塔が存在し、慰靈を続けていただいている。

今回の慰靈には顧問の市村先生が同行してくださいました。先生には片府田・佐良土での市川勢の戦闘の様子を解説していただき、宝寿院では朝食の準備をしていた際に敵襲を受けて正確な人数は不明ですが多数の戦死者を出し、近くを流れる小川が血で赤く染まったと言い伝えられていたこと、佐良土では黒羽藩の攻撃を受けて3人の戦死者が出たことなどをお話いただきました。また、ご住職からは市村先生もご存じなかったお話を伺いました。ひとつには、市川勢が宿泊した頃の宝寿院本堂は現在の位置とは違い、山門に近い現在は池がある辺りであったこと、もうひとつは、本尊の不動明王像には市川勢が戦闘を行った際に外から銃撃を受けた弾痕が残っているということでした。本尊の向かって左下には銃弾の痕が見られます。貴重なお話を伺った後、供養墓に移動してご住職に読経していただき、参加者全員で焼香しました。宝寿院を後にして佐良土の戦死墓に移動し、また参加者全員で焼香して慰靈を行いました。

新型コロナウィルス騒ぎの中での訪問であったため、密を避けての移動や、手の消毒などの対策の必要から、今回は会員の皆様へのお声がけは遠慮させていただきましたが、初めて慰靈をすることができ、地元の方々が現在も慰靈を行っていたいている状況を知ることができました。コロナ騒ぎが落ち着きましたら会員の皆様に諮り、改めて慰靈を行うことにしたいと考えております。



宝寿院供養墓

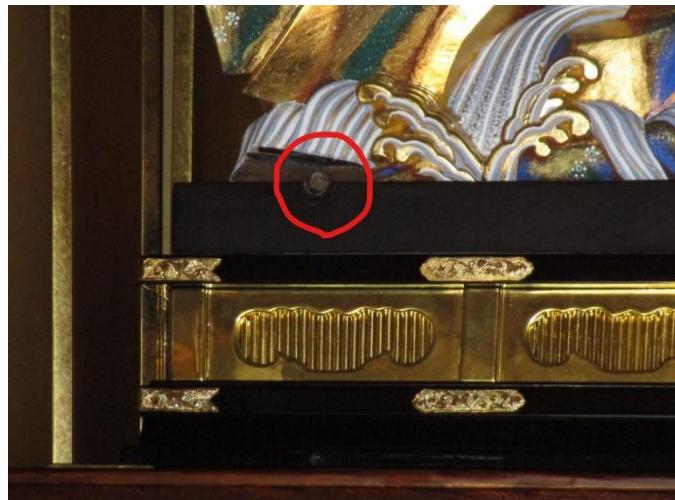
会長 大森信明



大田原市片府田の宝寿院本堂



住職のお話を伺う



本尊の向かって左下に銃弾の痕



供養墓にてご住職に読経していただき、焼香



佐良土戦死塔



戦死塔前にて

2 岡見事務局長ご退任について

会長 大森信明

事務局長として長年保存会を支えてくださいました、岡見円礼さんが、諸事情により事務局長をご退任されることになりました。長年に渡り保存会に多大な貢献をしてくださいました岡見さんに、心より感謝を申し上げます。岡見さんは、今後は一会员として会を支えてくださることです。

岡見さんの貢献は多岐に渡りますが、その中でも特に大きいものが次の2つと考えます。

まず1つ目は、水戸市行政とのつながりを作ったことです。ご学友の故・高橋丈夫議員に当会顧問になってもらい、H21の水戸市議会での答弁にて、当時の教育次長から「諸生・天狗のどちらかに偏ることなく、史実を忠実に後世に伝えていく努力をする」という見解を引き出しました。以後水戸市は、諸生党を平等に取り扱ってくれるようになった次第です。

また、行政への働きかけにより、傾いた恩光無辺の碑の修繕や、恩光無辺の碑の標柱設置、佐藤図書の墓の案内板の設置を実現しました。

2つ目は、水戸藩士殉難150周年記念事業を、実行委員長として完遂してくださったことです。実施にあたっては、水戸市との折衝や、必要な資金の調達、異なる意見の集約など難しい問題がありました。岡見さんはこれらの問題を一つ一つ解決していくと共に、史実を忠実に伝えること、格式の高い事業にすることに努め、常磐短期大学特任教授・市村眞一先生執筆による記念誌の発行や、茨城大学名誉教授・鈴木暎一先生による記念講演を実現するなど、胸を張って後世に伝えられる、素晴らしい事業にしてくださいました。

今後の保存会ですが、現時点では役員の中に岡見さんに替わる人材はなく、当面は事務局長不在のまま、残された役員で協力して会を運営していきます。また岡見さん以外にも高齢により役員退任を希望される方がおり、厳しい状況です。そのため新たな役員の募集など検討して行きますので、ご協力をお願いいたします。



岡見事務局長 お疲れ様でした



退任の挨拶

私 令和2年10月18日をもって事務局長を退任することにいたしました。理由は母が高齢になったことと、私も高齢になり、残りの人生神主として神明に奉仕しようと思ったからです。

振り返りますと、旧諸生党の復権のためいろいろなことをいたしました。倒れそうになっていた恩光碑を直したこと・朝比奈知泉の木柱や佐藤図書の看板を立てたこと・特に150年記念事業の委員長として約300万円を集め行事を行ったこと等、思い出すと一重に親友の故高橋武夫君と恩光碑保存会の役員の方々・会員の皆様のお蔭と感謝いたしております。

今後は、恩光碑保存会の一員として参加・協力いたしたいと存じます。長い間ありがとうございました。

鯉渕 息栖神社宮司 岡見円礼

3 令和3年総会等 恩光碑保存会の事業について

2月14日(日)に役員会を開催しました。新型コロナウィルス感染症は、新たな変異ウイルスによる感染、高齢者の感染や重症患者数の動向等について、まだまだ予断を許さないものがあり、首都圏では緊急事態宣言が再度延長される状況となりました。

ワクチン接種についても、いまだ一般の国民に接種できるだけの量が準備できておりません、接種の効果の確認にも時間をするものと考えられます。

このような状況に鑑み、例年3月に実施している恩光碑保存会の総会については、残念ながら令和3年は中止とすることといたしました。

なお行事の実施や日程などについて大きな変更が生じた場合には、随時、本会のホームページに掲示するほか、郵送等の方法によりお知らせしてまいります。

また、本会の年度会費につきましても、払込票等により納入いただけますようお願いいたします。

会員の皆様方には、大変ご不便をおかけすることとなり、誠に恐縮に存じますが、現今の状況にご理解を賜り、ご協力いただけますよう、よろしくお願ひいたします。

★編集後記 長引く自粛生活で大きな声を出す機会も減っております。
人のいない広い場所で、マスクを外し深呼吸したり、運動したりしてストレスを発散しています。身体ばかりでなく、心の健康も気にかけようと思っています。
(樹)

知恩第28号

発行日

2021年(令和3年)3月7日

発行所

水戸殉難者恩光碑保存会

発行人

大森信明

作 成

事務局 編集委員会